

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1128 2014年3月号

平成25年度国有林モニター会議の開催

八名の国有林モニターの方が出席され、国有林に期待すること等について、意見をいただきました。【詳細2頁】



浅川局長挨拶



会議に出席のモニターの皆様



二月二四日、四国森林管理局において、平成二五年度国有林モニター会議を開催しました。

国有林モニターの取組は、国有林野事業について



国有林モニター会議の様子

開かれた「国民の森林」に
相応しい管理経営を行なう

ため、一般市民の皆様から
幅広い意見や要望等を伺う
ものです。本年度は四国在
住の二六名の方に御願いし
ています。

今回の会議には、八名の
国有林モニターの方が出席
され、国有林に期待するこ
と等について、意見をいた
だきました。

この会議でいただいたモ
ニターの皆様の意見につい
ては、これからの四国森林
管理局の管理経営業務に活
かしてまいります。

(主な意見等は次のとおり)

○モニター勉強会で実際に
森林の中に入って森林が
メンタルにあたえる効果
をあらためて感じた。
○山地災害など防災の面で
森林が重要な役割をは
たしていることが分かっ
た。

○今後も小学生など小さい
うちから森林の機能や人
間とのかかわりなどにつ
いて教育してほしい。

○高齢者施設や市町村など
の公共施設の木造化・国
産材普及を推進してほし
い。

○遊歩道について、身近な
低山ハイキングコース
などは荒れているところ
が多く整備を進めてほし
い。

○グローバルな視点で日本
の木材の素晴らしさを
PRして国外への輸出に

も力をいれたら良いと思
う。
○国有林の林道・作業道等
を、隣接する民有地に延
ばしていると知り嬉しく
思った。

とPRし、国民が山や森
林に意識を向ける工夫を
してほしい。
○山に子供達を連れて行っ
て、色々と経験させるよ
うな教育をすることが重
要だと思う。



近年急激に生息数が増加
し、樹木や下層植生に被害
を及ぼしているニホンジカ
(以下「シカ」)の、徳島・
高知両県境の剣山・三嶺地
域における関係機関の対策
について連絡・調整する連
絡会議を、二月二七日に四
国森林管理局で開催しまし
た。

会議には、学識経験者や
関係公的機関の担当者等
二二名と局署の関係職員が
出席し、森林管理局、地方
環境事務所、徳島県、高知
県、馬路村のそれぞれから、
平成二五年度の対策の概要
と平成二六年度の対策案等
の報告がありました。
三嶺の森をまもるみんな

連絡会議の様子



の会の依光代表からは、白髪山周辺は香美市の捕獲（二年間で二三〇頭+α）により樹皮剥ぎ被害等はピーク時から激減したが、捕獲数から生息密度を推測

すれば未だ一畝当たり三五頭程度と適正密度を大幅に上回っていること、シカ食害が大きな要因となっている土壌浸食地の増加に伴い、豪雨の際の土砂流出量が大幅に増加しており、治山事業による保全対策を検討すべき段階にあるという報告がありました。

高知大学の石川教授からは、三嶺山域のシカ食害地における崩壊地の調査結果から、崩壊上端部は地下水が豊富で崩壊破断部は根茎層の下にパイ孔が密集していること等から、腐朽地下茎の多い層が地下水の選択的流路となつている可能性があること、空撮写真での崩壊地の年代比較（四〇年程度前）から、三嶺山域では恒常的に斜面崩壊が発生しており、昔の小規模な

崩壊は植生の侵入定着により修復してきたが、近年の崩壊地の増加及びその修復が遅いのは、シカの採食圧による可能性が高いという報告がありました。

意見交換においては、現在の捕獲目標頭数の根拠及び今後増加が予想される皆伐等による影響、石鎚山系のシカ被害対策、鳥獣保護管理の専門家育成の必要性、遠隔地にあるシカ防護ネット柵の維持管理対策、土地管理者及び一般からのシカ目撃情報等の収集・蓄積手法等について検討するなど、剣山・三嶺地域での取組の強化のみならず、四国全体でのシカ対策の推進について、改めて関係者が認識を共有しました。



二月一三日、「コンテナ苗など低コスト育林に関する勉強会」立ち上げに向けた準備会を開催しました。準備会には、高知県立森林技術センター、四国森林管理局（森林整備課、森林技術・支援センター、技術普及課）が参加しました。コンテナ苗は生産コスト

面で裸苗より価格が高いものの、これまでの導入結果によると植栽工期が優れている・植栽可能時期が広い・活着が良いなどの優位性が見られます。また、植栽時



コンテナ苗



勉強会の様子

期の平準化、伐採との一括の生産技術の向上や低コスト化、供給体制の整備などは大きく、民有林への普及を図るうえでも、国有林で先導的に利用していく必要があります。

準備会では、コンテナ苗

の生産技術の向上や低コスト化、供給体制の整備などは大きく、民間団体・県・国等が連携してこれらの情報を共有していくことを確認しました。



二月一四日、四国森林管理局において、「平成二五年度育種事業打ち合わせ」を林木育種センター関西育種場、四国森林管理局から計画課、森林整備課、森林技術・支援センター、技術普及課が出席し開催しました。

二月一四日、四国森林管理局において、「平成二五年度育種事業打ち合わせ」を林木育種センター関西育種場、四国森林管理局から計画課、森林整備課、森林技術・支援センター、技術普及課が出席し開催しました。

また、平成二五年度四国森林・林業研究発表会で発表（森林技術・支援センター、高知中部森林管理署）した「下刈省力化とシカ害対策に向けた新たな試みについて」エリートツリー植栽とシカ害防止クリップの導入は、育種場の試験地と同じ小班内に試験地を設定していることから試験



事業打ち合わせの様子

内容、データの共有など大いに相乗効果が図られることが期待されています。
※エリートツリー
成長が早く、幹がまっすぐ伸びる等の優れた性質を持つ精英樹を交配して出来たものうち特に性質の優れた樹木。



二月二一日、高知県立森林研修センター 情報交流館において、いの町立神谷小中学校の小学一年生（二名）、一年生（三名）、三年生（五名）児童計一〇名と教員三名を対象とした森林教室を行いました。

今回の森林教室（木工教室）は、情報交流館から神谷小中学校のお別れ遠足を兼ねた森林学習を同館が行うので、小学校の低学年を

ましたが、それだけ子ども達にとって一番身近な川だと感じさせられました。

次に、「大きな川も元をたどれば山からなんだよ。」ということで、紙芝居「森」の読み聞かせを行い、森林のはたらき・大切さについて学習しました。どの児童も真剣に聞き入っていました。

その後、全校生徒・児童が集まり、情報交流館の職員から、「森からの恵みをいただく山仕事」と題して、斤・のこぎりなど、昔の道具について説明を受け、見慣れない道具に関心を持つたようでした。

それから、木工教室、コロコロゲーム（トロッコ列車）を作成しました。子ども達は楽しみにしていたようで、手順を聞いた後は、

真剣かつ楽しそうにそれぞれが色使いなど工夫して、素敵な作品に仕上げました。予定時間が少し余ったので、完成させた順番に、講師である正岡さんと、子ども達が完成させた作品でゲームを楽しみ、ご褒美として、全員がジージージェミのプレゼントをもらいました。最初はセミの鳴き声に驚いた様子でしたが、喜んでずつと鳴らす子やどのよ

うな仕組みで鳴くのか探求する子と、時間いっぱい楽しむことができました。これからも、情報交流館とさまざまな連携を図り、お互いによりよい森林環境教育が行えるように協力関係を築いていきたいと考えています。

コロコロゲーム（トロッコ列車）完成



コロコロゲーム（トロッコ列車）完成



紙芝居「森」の読み聞かせ

各地のたより



木工クラブ教室 〜大月小・松野南小編〜 〈ふれあい推進センター〉

二月三日、高知県大月町立大月小学校の二・二年生七一名を対象に、また、二月七日、愛媛県松野町立松野南小学校の全校児童一一名を対象に木工クラブ教室を実施しました。

大月小学校では、始めに「木材の特徴」と題して、木の長所である軽くて丈夫なこと、加工しやすいこと、湿度を調整すること、また、短所としては、性質がすぐ硬く、割れやすいこと、シロアリ等の被害を受けやすいこと等について学習しまし

た。その後、木工クラブでは、事前に各パーツに加工したのを使って一年生は、『昆虫標本』、二年生は、『コロコロゲーム、山と海』を作製しました。

各パーツに加工していたのが良かったのか、思ったよりみんなの作品が早く完成したため、予め用意していた『ジージージェミ』も作製することが出来、児童のみんなは大喜びでした。

松野南小学校では、始めに、紙芝居「森」で森の大切さを学習しました。その後、二月末に同校で開かれる「ありがとう集会」（感謝祭）でこの一年間お世話になった地域の方々に

プレゼントする『おひな様』を作製しました。児童は、昨年四月に作品作りを体験していることもあり、スムーズに予定した時間内で目標の四〇セットが完成しました。

両校児童とも、今回の木工クラフト教室により、木の持つ温もりと、素材としての木材の良さについて十分に感じてもらえたものと思います。



大月小学校木工クラフト教室

松野南小学校木工クラフト教室



森林教室(木工クラフト)
「時計&カレンダー」作り
〈徳島森林管理署〉

二月一九日、徳島市の昭和保育所から、今年三月に卒業する園児の卒業記念品づくりの依頼を受け、園児九名を対象に森林教室「時計&カレンダー」づくりを行いました。

始めに当署職員が、森林の話として、徳島県の森林(もり)について説明し、その後、本日、木工クラフトで使う木の板や枝、木の実などは、徳島県の各地の山から採れた物であること、を説明しました。また、徳島県に生息するほ乳類などについて説明したところ、園児の中には、大人顔負けの動物に詳しい子がいて、写真を見ただけでモモンガとリスを見分けていました。

続いてクラフト作製に取りかかりましたが、初めての木工ボンドを使う子や材料の木片をまっすぐに並べることに苦労したりと、とても手こずっていました。全員が最後まで楽しそうに取り組んでいて、時間いっぱいまで材料を選んだり、飾ったりしていました。今回のクラフトは小学校中学年以上を対象とする難易度の高いものですが、主催した保育所の先生方と事前の綿密な打ち合わせを行っていたこともあり、当日は子供たち全員が立派な作品を完成することができました。

昭和保育所は過去にも森林教室(木工クラフト)を実施するなど、継続した活動を行っており、毎回、工夫を凝らして取り組んでいます。しかし、毎回、園児たちにとっては一生に一度の機会になりますので、当署としても森林や木製品に興味や関心を持つてもらい、木や自然をより身近に感じてもらえるよう努力していこうと考えています。

園児も夢中、「時計&カレンダー」づくり



まずはドングリ、あとはどれを飾ろうかな